

かつの微生物農法研究会便り

H19.8.2 Vol.8



夏、花輪ばやしの夏。

イネの穂、現る。

7月の中旬、低温で田んぼの稲のことが心配になる...というのは毎年のことになってしまいました。稲穂の赤ちゃんができる7月、低温が最も悪影響をおよぼすのです。東北地方では昔から、7月に「ヤマセ」と呼ばれる北東から吹く冷たい風が来ると、冷害になって大凶作になるといわれてきました。今年はどうやら当地のヤマセの影響は軽微なようですから、8月、夏本番の強い日差しを浴びて美味しいお米がたくさん採れるのを祈っています。豊作を祈願する当地で最も賑わう祭りでもあり日本一の祭囃子でもある「花輪ばやし」は8月19日から20日にかけて行われます。「花輪ばやし」が終わると、秋風が次第に感じられるようになり、収穫の秋が近づいてきます。



「微生物農法」って何のこと？

水田の土の中には沢山の種類、膨大な数の微生物が活動しています。私たち人間のお腹では善玉菌と悪玉菌のバランスが崩れると体調が悪くなりますが、イネにとってのお腹を水田土壌、とらえたのが微生物農法です。水田の土も微生物のバランスを整えてやるのがとても重要で、そのバランスが崩れるとイネが病気にかかりやすくなったり、生長が上手くいかなかったりします。有機肥料や堆肥で微生物バランスを良好に保つことで、健康で自ら美味しくなる

8月初旬、外に顔を出したばかりの稲穂。はみ出している白いものはイネの雄しべ。最初は直立して出てくるが、中身が充実するにつれて頭を垂れてくる。手前味噌だが、稲穂も美しいがイネの葉もまじまじと見るとなかなか美しい。すらりと伸びた一枚の葉は、機能美に溢れている。その神秘について書き出せば止まらなくなってしまふ。日本の自然で美しいのは女性の黒髪かイネの葉か。

お得なサービス実施中！

ポイントシールをためて送ると必ずもらえるプレゼント！



お買い上げいただいた商品についてくるシールを集めて専用台紙に貼って送ると、お米などをめれなくプレゼント！ お問い合わせは 0120-08-2028 まで

TOPICS

お昼のテレビでもお

「3分クッキング」雑誌に、私たちのお米の広告を掲載しています。毎日の食卓に上るお米の雑誌です。見れば驚かされる

生産地から

暑い夏の夜をさらに熱くしっぱなしにするお祭り「花輪ばやし」の季節です。意匠を凝らした各町内自慢の屋台で勇壮なお囃子を奏でながら練り歩き、喧嘩あり囃子勝負ありと見ごたえ充分なお祭りですが、これもれっきとした神事の一部。鹿角市花輪にある古の幸稻荷神社への奉納囃子で、8月16日から各種の神事が行われており、街中を練り歩くのはその一連の流れなのです。五穀豊穡を祈る勇壮な「花輪ばやし」で、今年も美味しいお米がたわわに稔ることでしょう。



北東北の片田舎、鹿角市で行われる『花輪ばやし』。毎年8月19日・20日に開催される。鹿角花輪駅前に設置される棧敷席はいつも満席だが、一度この祭囃子を体験した人間で魅了されないものはいない。奈良時代から製鉄が行われた蝦夷の拠点として栄え、戦国時代には大國間にあって戦乱に明け暮れ、70年も続いたゴールドラッシュによる黄金景気に沸いた当地鹿角ならではの勇壮な祭囃子。ぜひ一度見ていただきたい。



9月の中旬以降に収穫となるかづの銘産「かづの北限の桃」。年々評価が上がってきているよう。8月中旬から収穫までの期間晴天が続けば、更に更に糖度が増えて甘くなる。お盆明けの好天を期待。



銘産 かづの北限の桃

お問い合わせ・ご注文は...

〒018-5201
秋田県鹿角市花輪字小平 51
ひらの

平野りんご園

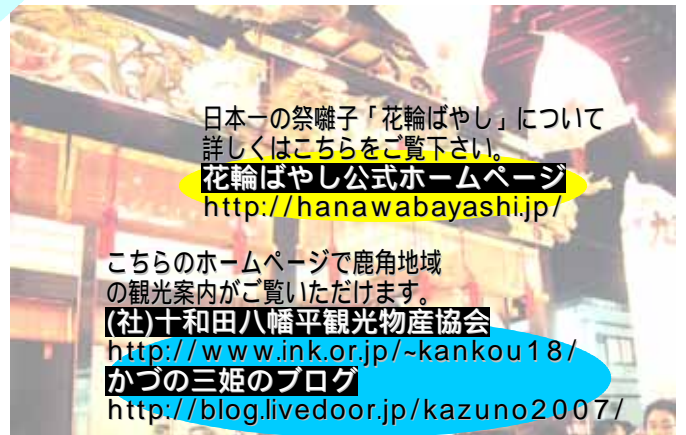
TEL 0186-25-2208 FAX 0186-25-3113

<http://www.eurus.dti.ne.jp/~k-apple/>



園主 平野亮一夫妻

平野りんご園より直送いたします



ぜひ一度
かづの
鹿角へ遊びに
来てみて下さい!!

有限会社 安保金太郎商店
かづの微生物農法研究会
事務局

文・写真：安保 大輔

この「微生物農法研究会便り」のバックナンバーや、毎月発送などのご希望がありましたらご一報下さい。感想もお待ちしています。